

氏名 佐竹 美穂 (サタケ ミホ)
所属 キャリアデザイン学科
職名 専任講師

専門領域 日本上代文学

専門の概要 風土記を中心に、日本の古代文学について研究してきました。風土記は律令国家形成期にあたって、地方のことを中央政府に報告する形で書かれた報告書です。同時期に成立した書物には、『古事記』や『日本書紀』があり、これらは中央の大和王権の歴史を記したものです。風土記は、基本的には『古事記』や『日本書紀』の歴史に沿うように記述がなされていますが、『古事記』・『日本書紀』には書かれない「地方」の歴史や姿も多く収載されています。古代日本において「地方」を書くというのはどのような営みとしてあったのか、風土記をはじめとした上代文献の読解を通し研究を進めております。最近では、上野三碑などの古代の地方について記した碑文にも関心を持っています。

備考 <論文>

- 『『常陸国風土記』における「国造」の「祖」の説話』（東京都立大学国語国文学会編『都大論究』第54号 2017年6月）
- 『『出雲国風土記』意宇郡母理郷条を読む—大穴持命の位置から—』（古代文学会編『古代文学』第58号 2019年3月）
- 「風土記の研究—「中央」と「地方」をめぐる新たな読み—」（博士論文（首都大学東京）2019年9月）
- 『『播磨国風土記』揖保郡意此川条を読む—交通妨害神の祭祀をめぐる—』（東京都立大学国語国文学会編『都大論究』第57号 2020年6月）

<学会発表>

- 『『肥前国風土記』松浦郡値嘉の郷条を読む—風土記の「土蜘蛛」に関する考察から—」（2020年度古代文学会10月例会）
- 『『常陸国風土記』香島郡「香島の天の大神」をめぐる記述を読む—「三処を合せて、惣べて香島の天の大神と称ふ」から—』（古事記学会2022年度9月例会）

キーワード 日本文学、上代、風土記、古事記、日本書紀、万葉集、神話、物語、地名、碑文